

海夫通信 第27号

2017.9.31

NPO 法人霞ヶ浦アカデミー

事務所 茨城県行方市浜 370 番地 1

ホームページ <http://www.k-academy.sakura.ne.jp>

Facebook <http://www.facebook.com/kasumigauraAC/>

ブログ http://blog.livedoor.jp/kasumigaura_ac/

【海夫】

潮の香りをほのかに残すここ霞ヶ浦にもかつては多くの海の民がいた。海に寄り添い、潮の流れとともに暮らしていた人たちに思いを寄せて、今生きる霞ヶ浦の海夫たらんとす。

今号の内容

○ハクレン 湖内産卵を確認
.....1-2面

○木村陽一コラム第3回...3-4面

○トネサップ湖と霞ヶ浦
.....3-6面

○編集後記.....6面

ハクレン 湖内産卵を確認 ワカサギに影響の可能性

土浦市 桜川

1 産卵情報

七月六日、ハクレンが桜川で産卵したとの情報が桜川漁業協同組合（組合長鈴木清次さん）から寄せられました。

産卵行動が確認されたのは七月六日、桜川河口から約1km上流の松塚付近です。前日夜中に降った雨の影響で当日は、水位が約1m上昇し濁水が勢いよく流下する状態だったそうです。同組合によつて多数のハクレンが群れをなして産卵行動をしながら流水に身を任せながら降つてく

様子が目撃され、産卵親魚（約20kg）も捕獲されました。

2 稚魚の出現

七月下旬になるとトロール漁にハクレン稚魚が混獲されるようになりました。八月十日の調査では、阿見

沖から大岩田沖の間の漁獲物はワカサギ30kg、ハクレン約20kg（体長5cm）で占められました。八月十八日にはハクレンの比率が高まり数100kgに増えていました。ワカサギが混獲される範囲は、八月二〇日現在で土浦入りの木原く埼玉から奥部です。

3 原因

桜川へのハクレン親魚の遡上は、以前から目撃され、産卵情報も数年前から漁業者によつてもたらされていてとこです。昨年も稚魚が湖内で確認されていましたが、今回、桜川漁業協同の調査活動によってハクレンが、利根川に回遊することなく霞ヶ浦湖内で産卵、繁殖したことが略確実となってきました。

（1）ハクレンの産卵条件

ハクレンは、もともと中国やアムール川水域に生息する魚で昭和十八から二十年に中国大陸から稚魚が全国に移植された魚です。そうした中で、再生産が行われ、資源が維持されてきたのは全国でも利根川水系だけでした。

ハクレンは、霞ヶ浦で成長し、親魚に達すると六月から八月に産卵場の埼玉県妻沼く行田地先の利根川

まで回遊遡上し産卵します。降雨があり増水し、濁水状態となつて流れが速くなった環境下で産卵します。産卵後、吸水して卵径約5mmに膨らんだ状態で、激しい流れに浮遊しながら流下し約二日で孵化、佐原付近の湿地や小水路に入つて成長します。利根川は大河川で孵化仔魚が海に押し出される前に生息の場に定着できるのが、その原因と考えられてきました。また、「濁水」は、産卵を促す刺激剤の役割と考えられています。

【二面続く】

トネサップ湖(カンボジア)【記事四面】

